令和３年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

中　沢　遺　跡

大　塚　遺　跡

2022

新潟県加茂市教育委員会

令和３年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

中　沢　遺　跡

大　塚　遺　跡

2022

新潟県加茂市教育委員会

序

山紫水明の自然環境に恵まれた加茂市では、市内全域で埋蔵文化財包蔵地が確認されています。登録し周知化が行なわれたところは177か所あります。そのすべてについて詳しい内容を把握するための調査が行なわれているわけではありません。埋蔵文化財包蔵地は地下にあるため、表面からはわかならいことがほとんどです。

遺跡を調査する理由としては、市内各所で計画される開発事業があげられます。加茂市では平成７年度から、埋蔵文化財包蔵地周辺で計画される大小様々な開発事業との調整を行うため、事前に遺跡の内容を把握する試掘・確認調査事業を国庫補助金と県費補助金を得て実施しています。

令和３年度では２遺跡を対象とした試掘・確認調査が実施されました。本書はその調査結果報告書です。

北越の小京都と呼ばれる加茂市にとって、各々の調査を通じて得られた情報は、地域固有の歴史を彩る重要な資料となります。時には貴重な文化財も出土します。

本書が地域史を語る資料として活用され、埋蔵文化財に対する理解が深まれば、この上なく幸せであります。

最後に、発掘調査に対して様々なご指導とご協力を頂いた新潟県教育庁文化行政課、並びに試掘・確認調査に参加された地元の方々、地権者および工事関係者に対し、ここに深甚なる謝意を表する次第であります。

令和４年６月

加茂市教育委員会

教育長　山　川　雅　己

例　　言

1　本報告書は、令和３年度に新潟県加茂市内の各種開発に伴い実施した２遺跡における確認調査の記録である。

2　調査は中沢遺跡、大塚遺跡ともに農業用排水路改良工事に伴い実施したものである。

3　確認調査の経費は、国庫および県費の補助金交付を受けた。

4　調査は加茂市教育委員会が主体となり実施した。調査体制（令和３年度）は以下の通りである。

調査主体	加茂市教育委員会	教　育　長	山川雅己
総　括		社会教育課長	有本幸雄
庶　務		社会教育課主査	吉田如菜
調査担当		社会教育課課長補佐	伊藤秀和
調査補助員		会計年度任用職員	鈴木　進

現場作業員　井上　巌・近藤和三・北澤昭一（公益社団法人加茂市シルバー人材センター会員）

5　調査記録図面・写真類は一括して加茂市教育委員会が保管している。

6　本書で示す方位はすべて真北である。

7　挿図に使用した既存図面については、その出典を記した。

8　写真図版２の空中写真は、(株) オリスが平成８年９月12日に撮影した縮尺約1/12,500×82.5%のものを使用している。

9　引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔　〕で文中に示し、巻末に一括して掲載している。

10　本報告書の執筆と編集はすべて伊藤秀和が行った。

11　遺物トレース、挿図、写真図版の版組みおよび全体のデジタル編集・データ化は、(有) 不二出版に委託し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。

12　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏から多大な御教示・御協力を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。（敬称省略・五十音順、機関などは順不同で令和３年度のもの）

（公社）加茂市シルバー人材センター・(株) 堀内組・(株) 浦井建設工業

新潟県教育庁文化行政課・加茂郷土地改良区・加茂市文化財調査審議会

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1
1　令和３年度事業の概要 …… 1
2　遺跡の位置と環境 …… 1
第Ⅱ章　農業基盤整備事業関連 …… 3
1　調査に至る経緯 …… 3
2　中沢遺跡 …… 3
（1）遺跡と確認調査の概要 …… 3　（2）層　序 …… 4
（3）遺構と遺物 …… 4　（4）調査のまとめ …… 4
3　大塚遺跡 …… 5
（1）遺跡と確認調査の概要 …… 5　（2）層　序 …… 6
（3）遺構と遺物 …… 6　（4）調査のまとめ …… 6
第Ⅲ章　ま　と　め …… 7
1　令和３年度調査について …… 7

《引用・参考文献》 …… 8
《別　表》 …… 9
1　大塚遺跡　土器観察表
《報告書抄録》 …… 巻末

挿 図 目 次

第 1 図　確認調査実施遺跡と本書関連遺跡位置図 …… 2
第 2 図　中沢遺跡推定範囲と調査対象地位置図 … 3
第 3 図　中沢遺跡確認調査トレンチ位置図 …… 4
第 4 図　中沢遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 … 4
第 5 図　大塚遺跡推定範囲と調査対象地位置図 … 5
第 6 図　大塚遺跡確認調査トレンチ位置図 …… 5
第 7 図　大塚遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 … 6
第 8 図　大塚遺跡確認調査出土遺物 …… 6
第 9 図　大塚遺跡表採・既往調査出土遺物 …… 7

表　目　次

第 1 表　令和 3 年度発掘調査工程表…… 1

写真図版目次

写真図版 1　【中沢遺跡】
調査地近景（北東から）　調査地近景（南西から）
2 トレンチ調査風景（南西から）　4 トレンチ調査風景（南東から）
1 トレンチ土層断面（東から）　2 トレンチ土層断面（東から）
3 トレンチ土層断面（東から）　4 トレンチ土層断面（南東から）
写真図版 2　【大塚遺跡①】
大塚遺跡周辺の空中写真　調査地近景（西から）　調査地近景（東から）
2 トレンチ調査風景（西から）　4 トレンチ調査風景（南から）
写真図版 3　【大塚遺跡②】
2 トレンチ土層断面（北から）　3 トレンチ土層断面（北から）
4 トレンチ土層断面（北から）　5 トレンチ土層断面（北から）
出土遺物

第Ⅰ章　序　　説

1　令和３年度事業の概要

現在まで、加茂市で確認、周知化された埋蔵文化財包蔵地は 177 か所である。これは、昭和 60・61 年度の七谷地区を対象に行われた東部地区詳細分布調査〔川上・長谷川(注3)1987〕と平成７年に新潟県教育委員会主催で主に沖積地を対象にして実施された詳細分布調査の成果によるところが大きい。

当市での埋蔵文化財専門職員の採用は平成４年で、上記の成果を基礎として、各種開発事業との協議・調整が行われている。試掘・確認調査の国庫補助事業としての開始は平成７年度からで、今年度まで継続して実施している。

平成９年から平成 19 年頃までバイパス建設や圃場整備事業など大規模な公共工事に伴う発掘調査が続いたが、それ以降は大きな開発事業がなく、本発掘調査には至っていない現状にあった。しかし、ここ数年は道路事業に関係した本発掘調査が行われ、しばらく継続する見込みとなっている。なお、既往の発掘調査で報告書が未刊行であったものについては、『加茂市史　資料編４　考古』〔加茂市史編集委員会 2016〕に概要が記載され、主要な調査成果は公となり活用されている。

令和３年度の確認調査は、加茂郷土地改良区が施工する農業用排水路改良工事に伴い２遺跡を対象に実施した。このほかに、平成 28 年度から開始した剣ヶ峰城跡の地形測量と確認調査について、本年度も継続実施した。また、花立遺跡についても昨年度に引き続き、本調査を実施した。

遺跡名	調　査	調査原因	遺跡の主な時代	月　※現場調査期間											備考
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
中沢遺跡	確認	農業用排水路改良工事	弥生～古代									▬				
大塚遺跡	確認	農業用排水路改良工事	古代									▬				
剣ヶ峰城跡	測量・確認	保存目的の学術調査	中世		▬											本書未収載
花立遺跡	本調査	道路建設工事	古墳・古代						▬	▬	▬	▬				本書未収載

第１表　令和３年度発掘調査工程表

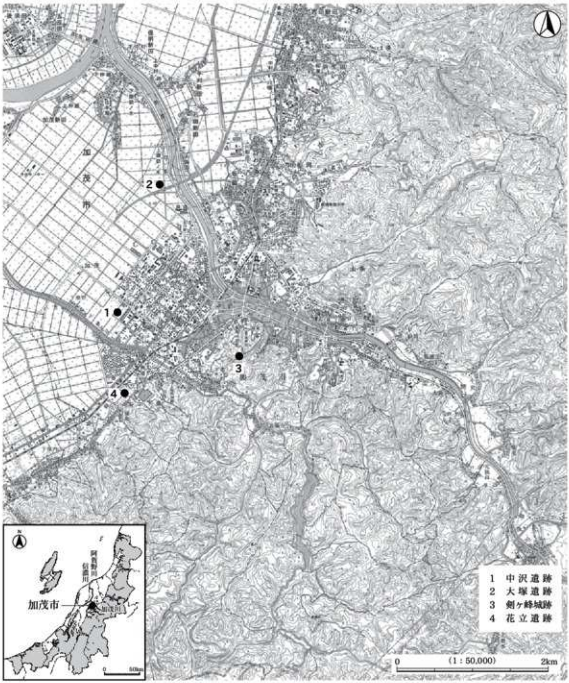
2　遺跡の位置と環境（第１図）

加茂市は新潟県のほぼ中央の県央域に位置する。市域周辺は田上町、五泉市、新潟市南区（旧、白根市）、三条市と接する。東部に高さ 1,000m を超える粟ヶ岳、権ノ神岳などの山岳が聳え、粟ヶ岳を源とする加茂川が小乙川、高柳川、大谷川などの支流を集め、谷底平野を縦貫し、加茂新田地区で信濃川に合流する地勢を持つ。一級河川加茂川の流域延長は約 11km である。

加茂川上流部は「七谷」地区と呼ばれ、加茂川およびその支流が小規模な段丘を形成し、旧石器時代～縄文時代の遺跡がその段丘上に多く分布する。一方、弥生～古代の遺跡は極めて少なく、中世になると小規模な山城や信仰関連遺物が多く確認され、再び遺跡数が増加する。一方、加茂川が東山丘陵を抜けた市街地域には扇状地形が形成され、下条川流域右岸で突如、弥生時代後期後半の集落が出現する。また、沖

積地では古墳時代前期と後期に一段と集落が広範囲に展開し、その後若干の空白期間を挟んで、奈良・平安時代の大規模な遺跡が成立する。中世の集落は少ない。

中沢遺跡（1）は下条川右岸の沖積地に位置する。一面水田だが一部で市街地化が進行している。現地表面の標高は約 7 ～ 9m である。弥生時代後期と奈良・平安時代の集落が発掘調査されている。大塚遺跡（2）は加茂川左岸の自然堤防上に位置する。一面水田で、現地表面の標高は約 7m である。加茂川に沿って帯状に確認され、平安時代の土器が採取できる。剣ヶ峰城跡（3）は加茂城跡の西側に連なる標高 110m の尾根上にある戦国期の山城である。花立遺跡（4）は東山丘陵の縁辺部で扇状地の端部で緩傾斜地に位置する。現況は畑や水田で標高は約 12m である。平安時代の集落が発掘調査されている。



第 1 図　確認調査実施遺跡と本書関連遺跡位置図（S＝1：50,000）
（国土地理院　平成 14 年発行〔加茂〕・平成 22 年発行〔矢代田〕　S＝1：25,000　原図）

第Ⅱ章　農業基盤整備事業関連

1　調査に至る経緯

令和３年度は加茂郷土地改良区による農業用排水路改良工事に伴い、中沢遺跡と大塚遺跡を対象とした確認調査を行った。事業者から５月に工事予定区域が示され、ともに周知範囲内の工事であることから確認調査を行うこととした。施工業者が決まった10月以降から協議を行い、冬場施行を確認し、業者との連絡・調整を行い、準備を行った。

文化財保護法第93条第１項の規定による埋蔵文化財発掘の届出について、加茂郷土地改良区理事長から令和３年９月６日付け加土改第77号-1で中沢遺跡、第77号-2で大塚遺跡について新潟県教育委員会教育長宛てに提出された。これを受けて市教委では、埋蔵文化財の発掘について、令和３年９月７日付け民資第128号で中沢遺跡、第129号で大塚遺跡について確認調査が必要であると副申した。

その後、文化財保護法第99条第１項の規定による埋蔵文化財発掘調査の着手報告について、令和３年12月22日付け民資第179号で中沢遺跡、第180号で大塚遺跡について新潟県教育委員会教育長宛てに提出し、確認調査を実施した。

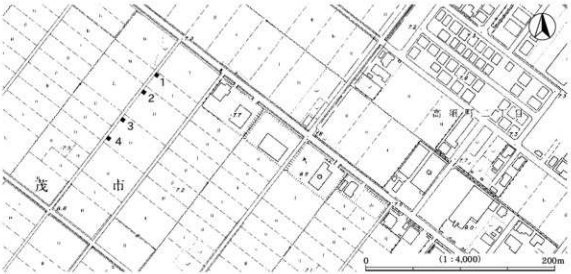
2　中沢遺跡

(1) 遺跡と確認調査の概要（第２・３図）

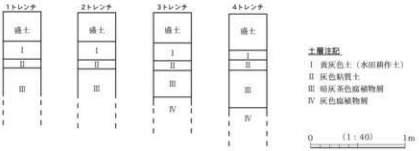
中沢遺跡は下条川右岸で現況水田地帯の沖積地に広大な範囲で確認されている。南東部は扇状地先端部にあたり、市街地化が進んでいる。遺跡は平成７年の詳細分布調査により発見された後、様々な開発行

第２図　中沢遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：10,000）

（加茂市　平成20年印刷［加茂市街図］　S＝1：10,000　原図）



第３図　中沢遺跡確認調査トレンチ位置図（S＝1：4,000）
（加茂市　平成 17 年印刷〔加茂市街図その 11〕　S＝1：2,500　原図）



第４図　中沢遺跡確認調査トレンチ土層柱状図（S＝1：40）

為が計画され、幾度となく確認調査が行われてきた〔伊藤 2005 ほか〕。本調査も実施され、遺跡の主体は弥生時代後期と奈良・平安時代であることが明らかとなっている〔加茂市史編集委員会 2016〕。

確認調査は、令和３年 12 月 23 日に行われた。工事計画予定地内に任意にトレンチを設定し、重機により約 1.2 × 1.1m の大きさで４か所掘削し、遺構・遺物の検出および土層堆積の確認を行った。掘削の深度は排水路改良工事の最深部を大きく超えない程度とした。

(2) 層　序（第４図）

基本土層は、１～４トレンチで同様である。砂利敷き農道の盛土下にⅠ層黄灰色土（水田耕作土）、Ⅱ層灰色粘質土、Ⅲ層暗灰茶色腐植物層、Ⅳ層灰色腐植物層が堆積する。掘削深度内では遺物包含層、遺構確認面（地山）ともに確認できない。Ⅲ層、Ⅳ層の腐植物層から周辺一帯が湿潤な地形であったことが推測される。

なお、調査対象地の北側で倉庫建設工事に伴い実施された確認調査では腐植物層の下部に暗灰色粘質土（遺物包含層か）と緑灰色土（遺構確認面か）が確認されている〔伊藤 2015〕。

(3) 遺構と遺物

遺構・遺物ともに確認されなかった。

(4) 調査のまとめ

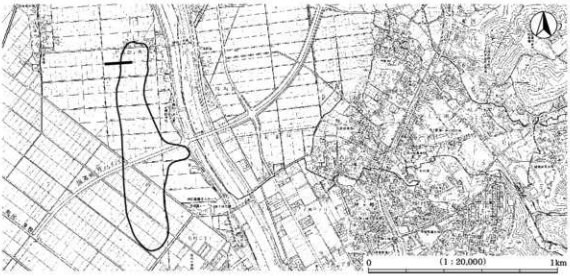
堆積する土層から、調査対象区域周辺は低湿地であったことが想定される。工事による掘削深度内には遺跡は確認できず、埋蔵文化財への影響はないものと判断できる。

3　大塚遺跡

(1) 遺跡と確認調査の概要（第５・６図）

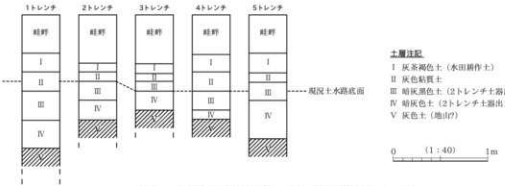
大塚遺跡は加茂川左岸の自然堤防上に位置する。現地表面の標高は６～７m 前後で現況は水田および畑地である。遺跡は加茂川に沿って帯状に細長く確認され、平成７年の詳細分布調査により発見された。南北方向約 1.1km の範囲に広がる。平成 10 年に南水排水ポンプ場建設工事に伴う確認調査が行われ、耕作土下約 1m のところから平安時代の遺構・遺物が検出された〔伊藤 1999〕。また、今回と同じ農業用排水路改良工事に伴う確認調査が、平成 24 年度に実施されている〔伊藤 2013〕。

確認調査は、令和４年１月５日に行われた。工事計画予定地内に任意にトレンチを設定し、重機により約 1.8 × 2.0m の大きさで５か所掘削し、遺構・遺物の検出および土層堆積の確認を行った。掘削の深度は排水路改良工事の最深部を大きく超えない程度としたが、それ以上に深くなったところについては川砂を入れて埋戻した。

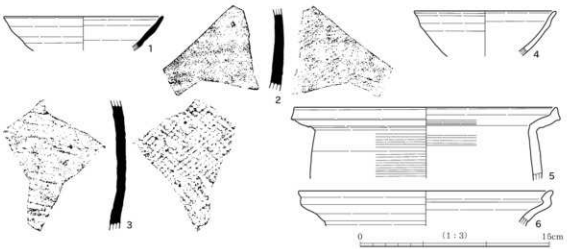


第５図　大塚遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：20,000）
（加茂市　平成 20 年印刷〔加茂市街図〕　S＝1：10,000　原図）

第６図　大塚遺跡確認調査トレンチ位置図（S＝1：4,000）
（加茂市　昭和 58 年印刷〔加茂市街図その７〕　S＝1：2,500　原図）



第７図　大塚遺跡確認調査トレンチ土層柱状図（S＝1：40）



第８図　大塚遺跡確認調査出土遺物（S＝1：3）

(2) 層　序（第７図）

基本土層は、1～5トレンチで同様である。畦畔の下にⅠ層灰茶褐色土（水田耕作土）、Ⅱ層灰色粘質土、Ⅲ層暗灰黒色土、Ⅳ層暗灰色土、Ⅴ層灰色土が堆積する。2トレンチのⅢ層、Ⅳ層から古代の土器が出土し、遺物包含層の可能性がある。Ⅴ層が遺構確認面（地山）と判断される。

(3) 遺構と遺物（第８図）

遺構は確認されなかったが、2トレンチから土師器 18 点、須恵器 4 点が出土した。

1は須恵器無台杯で、やや薄手で口縁部が大きく外反する。2は須恵器長頸瓶の体部で、外面には平行タタキ痕を残している。3は須恵器甕の体部。1～3の須恵器はすべて佐波小泊窯産であろう。4は土師器無台椀で、小振りでやや深身である。5と6は土師器長甕で、それぞれ口縁部の形状が特徴的である。5は端部に面を持ちやや上方に摘ままれる。6は受け口状で端部を屈曲させて上に摘み出している。

上記はすべて平安時代のもので、薄手の須恵器無台杯や小振りの土師器無台椀、長甕の口縁部の形状などから春日編年Ⅵ2.3 期〔春日 1999〕・9 期〔春日 2019a〕の 9 世紀末頃と考えられる。

(4) 調査のまとめ

僅かであるが、2トレンチから出土した土器から、周辺に平安時代の遺跡が存在することが確認できた。調査対象地の現況である土水路の底面直下から出土したことから、すでに一部の遺物包含層は土水路の掘削工事により削平された可能性が高い。また、明確な遺構は確認できなかったが、排水路改良工事の掘削工事の際に2トレンチ周辺部において工事立会いが必要と判断される。

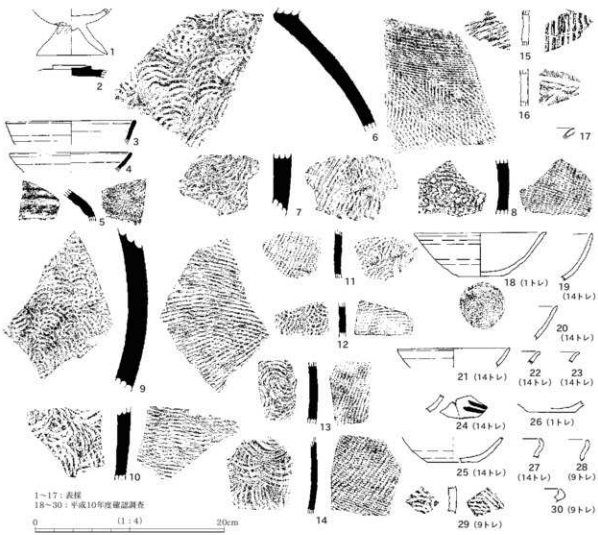
第Ⅲ章　ま　と　め

1　令和３年度調査について

令和３年度は、排水路改良工事に伴い２遺跡を対象とした確認調査を実施した。以下、各遺跡の成果と課題を記す。

中沢遺跡　今年度の調査対象区域は遺跡の北西端部にあり、許容された掘削深度内では遺構、遺物は確認できなかった。各トレンチの土層は腐植物層が堆積し、周辺一帯が低地で湿潤な地形環境であったことが推定される。広い遺跡推定範囲内においては、一様の地形環境ではなく、地点により様々な地形を内包していることがうかがえる。

大塚遺跡　調査対象地は遺跡の北西端部にあったが、従前の調査で出土したもの（第９図）と同時期の９世紀末頃の遺物が少量であるが確認された。調査は遺跡の一部を対象としたもので、不確実ではあるが



第９図　大塚遺跡表採・既往調査出土遺物（S＝1：4）

（〔加茂市史編集委員会 2016〕から転載）

下条川流域の平野部の開発が８世紀中頃や９世紀前半頃に行なわれた様相を示す中で、加茂川流域にある大塚遺跡ではそれよりもやや遅れて開発が行なわれた可能性を示している。

上記確認調査は狭少な区域を対象とし、極めて限定されたものとならざるを得ないものであるが、遺跡のひろがりや地形環境などを推測する手掛かりを把握する上で有効なものと認識している。今後も同様の事業が行なわれることが予想されるので、遺漏のないよう努めたい。

引用・参考文献

伊藤秀和　1999　『加茂市文化財調査報告（9）平成 10 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2005　『加茂市文化財調査報告（15）平成 15 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2013　『加茂市文化財調査報告（24）平成 24 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

伊藤秀和　2015　『加茂市文化財調査報告（27）平成 26 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書』　加茂市教育委員会

小山正忠・竹原秀雄（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）　1967　『新版標準土色帖』（1998 年版）　日本色研事業株式会社

春日真実　1999　「第４章　第２節　土器編年と地域性」『新潟県の考古学』　新潟県考古学会

春日真実　2019a　「第５章　第１節　総論」『新潟県考古学会設立 30 周年記念誌　新潟県の考古学』Ⅲ　新潟県考古学会

春日真実　2019b　「第５章　第２節　第１項　土師器・須恵器の器種分類」『新潟県考古学会設立 30 周年記念誌　新潟県の考古学』Ⅲ　新潟県考古学会

加茂市史編集委員会　2016　『加茂市史　資料編４　考古』　加茂市

川上貞雄・長谷川昭一ほか　1987　『加茂市文化財調査報告（3）　東部地区遺跡詳細分布調査報告書～国営加茂東部地区総合農地開発事業周辺地域～』　加茂市教育委員会

別　　表

凡　例

1　残存率　※/36で残存割合を示した。
2　胎　土　含有物は土器の胎土中に含まれる鉱物等について記した。「石」は石英粒、「砂」は砂粒、「長」は長石、「白」は白色粒を表す。
　　分類は須恵器の胎土について行い、『新潟県の考古学』Ⅲの分類（春日 2019b）を参考にした。B群は佐渡小泊窯跡群で確認できる。
3　焼　成　現状者の主観的判断で「良好」、「並」、「不良」に分類した。
4　色　調　『新版標準土色帖』（小山・竹原 1967）（1998 年版）の記号を記した。

別表 1　大塚遺跡　土器観察表

図No.	掲載番号	出土位置	種別	器種	法量（cm）			残存率		胎土		焼成	色調		手法			回転方向	備考
					口径	底径	器高	口縁	底部	分類	含有物		外面	内面	外面	内面	底面		
B	1	2トレンチ	弧底部	無台杯	12.6			4/36		B群	白	不良	7.5Y7/1 灰白	7.5GY7/1 明緑灰	ロクロナデ	ロクロナデ			
	2	2トレンチ	弧底部	長頸瓶						B群	石・長	並	10Y4/1　灰	2.5GY4/1 暗オリーブ灰	平行タタキ、ロクロナデ	ロクロナデ			
	3	2トレンチ	弧底部	甕						B群	石・長	並	10Y6/1　灰	10GY6/1 緑灰	格子タタキ	平行当て具			内外：鉄分付着
	4	2トレンチ	上薄部	無台椀	11.2			8/36			石・砂	不良	7.5YR7/2 明褐灰	7.5YR7/3 にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ			外：煤付着
	5	2トレンチ	上薄部	長甕	20.8			8/36			石・砂	並	10YR8/2 灰白	7.5YR7/2 明褐灰	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ			
	6	2トレンチ	上薄部	長甕	20.2			3/36			石・砂	並	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ			内外：煤付着

写 真 図 版

調査地近景（北東から）

調査地近景（南西から）

2 トレンチ　調査風景（南西から）

4 トレンチ　調査風景（南東から）

1 トレンチ　土層断面（東から）

2 トレンチ　土層断面（東から）

3 トレンチ　土層断面（東から）

4 トレンチ　土層断面（南東から）

大塚遺跡周辺の空中写真

調査地近景（西から）

調査地近景（東から）

2トレンチ　調査風景（西から）

4トレンチ　調査風景（南から）

2 トレンチ　土層断面（北から）

3 トレンチ　土層断面（北から）

4 トレンチ　土層断面（北から）

5 トレンチ　土層断面（北から）

出土遺物　　5〔1：3〕　その他〔1：2〕

報告書抄録

ふりがな	かもしないいせきかくにんちょうさほうこくしょ
書名	令和３年度　加茂市内遺跡確認調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	加茂市文化財調査報告（35）
編著者名	伊藤秀和
編集機関	加茂市教育委員会　社会教育課
所在地	〒959-1392　新潟県加茂市幸町２丁目３番５号　TEL　0256（52）0080
発行年月日	西暦　2022年６月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	″　′　″	″　′　″			
中沢遺跡（なかざわいせき）	加茂市大字下条字中沢乙（かもしだいあざしたじょうあざなかざわのいつ）352番地-1ほか	15209	119	37度 39分 41秒	139度 01分 55秒	20211223	6	農業用排水路改良工事
大塚遺跡（おおつかいせき）	加茂市大字加茂字大塚（かもしだいあざかもあざおおつか）2429番地ほか	15209	126	37度 40分 39秒	139度 02分 22秒	20220105	17	農業用排水路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中沢遺跡	集落跡	弥生～中世			
大塚遺跡	遺物散布地	古代		須恵器・土師器	

加茂市文化財調査報告（35）

令和３年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

中沢遺跡
大塚遺跡

印刷年月日　令和４年６月23日
発行年月日　令和４年６月30日

発行・編集者　加茂市教育委員会
〒959-1392　新潟県加茂市幸町２丁目３番５号
TEL　0256（52）0080

印刷所　株式会社 小野塚印刷所
〒959-1354　新潟県加茂市新町１丁目５番16号
TEL　0256（52）0056